

第1回 豊岡市図書館未来プラン検討会議 会議録（要約）

開催日時： 2026 年 5 月 21 日（木） 14:00～16:00

開催場所： 豊岡市立図書館本館 視聴覚・講演室

出席者： 委員 9 名

嶋田学委員、永井英司委員、伊藤京子委員、衛藤朋絵委員、田中里佳委員
岸田尚子委員、田口幹也委員（オンライン参加）、田中亜衣子委員、宇野暢哲委員
事務局（教育次長、教育総務課長、図書館長、図書館主幹 3 名）

1. 目的と概要

豊岡市図書館未来プラン（2027 年度～2031 年度）の改訂に向けた第 1 回検討会議。図書館の利用状況の確認、今後の改訂スケジュールおよび事業推進状況について共有し、委員からの意見・要望をヒアリングした。

2. 議論の主なポイント

(1) 学校連携と読書支援の現状と課題

- **現状**：学校との連携は成果が出ている一方で、学校により利用頻度に差がある。
- **教員の負担**：団体貸出は、図書館に選書を頼めるが受取・返却は教員の業務。読み聞かせやストーリーテリングは利用しやすいが、ブックトークは早期に図書館に依頼する必要がある。教員の個人的な熱意や業務負担に依存している現状がある。
- **改善案**：ブックトークの年間実施計画を校内で立てて図書館サービスを活用すること、公共図書館から学校への資料配送体制の強化（週 1 回の定期便運行など）や、市内の各学校に学校司書を配置して図書室の開閉、選書、児童生徒への対応、先生方の教科学習の支援ができる体制を整備すること（現在は未配置）等の重要性が指摘された。

【参考事例】

- ・ 東近江市（滋賀県） 図書館が主体的に学校司書の予算を確保して学校に派遣
- ・ 瀬戸内市（岡山県） 公共図書館と学校がオンライン、学校が予約すると公共図の図書が定期便で学校に運搬されるしくみ

(2) 移動・出張サービスと地域拠点

- **出張図書館の成果**：本館の大規模改修時にアイティで実施した出張図書館は、2 日に 1 回、午後 3 時間実施。全 9 回で 1000 冊以上の貸出実績を残し、アクセスが良い場所での需要が証明された。

コミュニティが運営するカフェに本を持ち込んで、カフェの利用者に提供するといった意見あり。
- **団体貸出**：継続利用しているコミュニティセンターもあるが、利用団体は増えていない。→図書館の働きかけだけでなく、コミュニティ側の協力も必要。竹野は定期的に宿泊施設の利用がある。
- **移動図書館への期待**：市域が広く分館へアクセスしにくい住民（特に山間部の高齢者等）のために、将来的に、移動図書館（バス巡回）導入の検討が求められた。

【情報】移動図書館車 2000 冊積載（2.5 トン～3 トントラック）は導入費用が高いが、最近では軽トラック（500 冊積載）が増えてきた。

- **地域連携：**移動スーパーの車両活用や、地域のコミュニティ拠点・私設図書館と連携した本の貸出・返却など、既存の仕組みを活用したポイント拡大の可能性について議論された。映画館とのコラボ、古民家での書籍販売（大石家住宅）
- **返却ポスト：**勤務時間の事情等により返却で困っている人がいる。返却ポストが増えると助かる人が多いとの意見あり。
- **本に触れる機会の創出：**「本屋に人に来てもらうより、本屋さんが人のいるところに行った方がいいんじゃないか」（有識者の参考意見）
- **【参考事例】**
 - ・海士町（島根県） 島まるごと図書館
 - ・津山市（岡山県） 市内業者が開発したコンピュータシステムを活用した貸出サービスを実施

(3) 電子図書館サービスの利便性と懸念

- **利用の実態：**電子書籍は場所を選ばない利便性がある一方、紙の図書のように県下の図書館の横断検索ができない点や、契約形態が様々で、長期間の蔵書確保が難しいという課題がある。現在は約 800 点蔵。
- **方針：**読み放題サービスや単年度契約の書籍を含め、今後年間 200 冊ペースでの増加を目指す。

(4) 多文化共生への対応

- **現状：**外国籍の方の来館は見られるが、図書資料の利用ではなく学習目的が多い。母語で読める資料（特に英語・中国語以外）の確保が難しい。

豊岡市の外国人市民：約 1,300 人、人口の 1.5～1.6%、ベトナム、ネパール、中国、韓国の方が多い
- **課題：**日本語学習のための書籍活用や、居場所としての図書館利用など、読書以外のニーズに対しても、やさしい日本語の書籍拡充などで対応を進める方向性が示された。

(5) 図書館の居場所機能と環境整備

- **Wi-Fi 環境：**豊岡市立図書館のフリーWi-Fi は非常に使いやすく、ストレスがないと高く評価されている。
- **ゾーニング：**学習利用の需要が高い一方、PC タイピング等の音が気になる層もいるため、目的別のゾーニングが必要ではないかとの指摘があった。
- **居場所：**図書館を地域の拠り所のような形で図書館を充実させたいという意見があった。

(6) 持続可能な運営に向けたジレンマ

- **効率化の視点：**人口減少下で、利用の少ない時間帯の開館や人的配置を維持すべきか、持続可能性の観点から議論が必要。

- ・開館時間の維持か、時間を短くする代わりに他の手法を検討するか。
- ・市内で施設の統廃合や複合化の話があり、図書館も無関係ではない。
- ・市長のマニフェスト「創生5（ファイブ）」の「整備された学びのあるまちへ」に位置付けられる。
- ・子育てセンターや地域コミュニティとどう連携していくかが課題。

【情報】 東近江市 五個荘町図書館 中学校内に移転し、公共図と学校図の機能を併せ持つ

【利用状況の推移の分析 2013 年-2025 年】

- ・豊岡市の人口では△84.9%、登録率は△80.2%、それと比較して入館者数はコロナ以降の戻りが弱い（△66.3%）
- ・10 歳～15 歳の登録者が非常に多い：理由は？ →竹野地域は小学生全員が登録者
- ・貸出点数は、2024 年は 1 人当たり 5.0 冊で全国平均（4.8 冊）より高いが、2019 年は 6.27 冊あった。
- ・**財政的な裏付け**：豊岡市の総予算に対する図書館費の比率（0.24%）は、類似自治体と比較しても決して高くはない。単なる効率化（開館時間短縮）ではなく、聖域として守るべきサービスと、予算を投じてでも強化すべき重点施策の仕分けが必要との認識が共有された。

【情報】 図書館界では、自治体の一般会計に占める図書館費用が 1%あると非常に良いサービスができると言われている（例 浦安市：6 億円/600 億円、瀬戸内市：0.52%）。

3. 決定事項

- ・ **座長・副座長選任**： 嶋田学委員が座長、永井英司委員が副座長に選任された。
- ・ **次回日程**： 6 月 25 日（木） 14:00～

4. 今後に向けて

担当	内 容
事務局	予算要求に向けた政策検討および類似自治体との比較データ等の準備
全委員	各分野からの知見提供、地域ニーズの掘り起こし